



Letter of the M.Y. elementary school

ひびき 南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい かがやく子 ～

学校通信 NO.295

令和2年度9月号

令和2年8月31日

『人を笑顔にする算数 ～おもいやり算～』

副校長 志波 亮

暦の上では立秋を過ぎ、季節は夏から秋へと移りゆく時期ですが、まだまだ残暑厳しい日が続きます。学校では、お子さんの健康安全を第一に考え、環境省の暑さ指数に基づきながら、エアコンを常時稼働させたり、水分補給の時間や回数を増やしたり、運動を制限したりなど熱中症対策と感染症対策措置を並行して講じております。

さて、私には、心に残ったテレビ広告があります。

「+」は、たすけあうこと

「-」は、ひきうけること

「×」は、声をかけあうこと

そして、

「÷」は、わけあうこと

それは人を笑顔にする算数、おもいやり算

ほら、やさしいでしょ

これは、東日本大震災のあとに放送されました。テレビ広告を見終わったときに、心がぽかぽかと温かくなったと同時にメモを取る自分がいました。私は、小学校教員となり、毎日算数の授業をしてきましたが、こんな素敵な、人を笑顔にする算数「おもいやり算」の存在をその時初めて知りました。

ご存知のように、小学校の算数では、+（たし算）、-（ひき算）、×（かけ算）、÷（わり算）を学びます。そして、この4種類が交ざった計算式を小学校4年生で学習します。その時に「計算のきまり」も学びます。例えば、「 $5+2\times 3$ 」という式は「 2×3 」を先にするというきまりです。これは、たし算よりかけ算を先にしましょうという約束です。これを「かけ算優先のきまり」と言います。ですが、「おもいやり算」には、「たすけあう」より「声をかけあう」を先にするきまりはありません。どこからやっても答えにあやまりはないのです。

困っている友達がいれば「たすけあい」

大変なことや割に合わないことでも「ひきうけ」

あいさつや励まし、ありがとう、ごめんねの「声をかけあい」

喜びや楽しいこと、悲しみもみんなで「わけあう」

本校の教育活動の重点的な取組の中に「豊かな心の育成」があります、その具体的な目標の一つとして、「思いやりや共感する心を持ち、互いに支え合う態度を育てること」を掲げています。みんなを笑顔にする算数「おもいやり算」の輪をクラスや学年、そして南山田小学校全体に広げていくことが、思いやりや共感する心と共に、友だちと支え合う豊かな心を醸成していくことにつながり、今よりもっと「**ともだちいっぱい かがやく子**」であふれる南山田小学校へとつながっていくことでしょう。

感染症対策や熱中症対策に努めながら、子どもたちの豊かな心の育成にも教育活動全体を通して全教職員で力を尽くしてまいります。今後とも、本校の教育活動への保護者の皆様、地域の皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

①なかよしペア活動を通して、思いやりや共感する心を持ち、互いに支え合う態度を育てる。②うたごえを通して、豊かな感性や情操を養い、表現の喜びを味わいながら自己肯定感を高める。③人権週間での取組を行い、相手の立場や人権を尊重する大切さを理解し、実践への意欲をもたせる。

みて、をご存知の方も多いのではないでしょうか。大正末期から昭和初期にかけて活躍した童謡詩人 金子みすゞさんの代表的な詩です。小学校の教科書にも採用されたり、昨年度の図書委員会による図書集会でもこの作品をテーマにして全校発表したりしたので、多くの子ども達も知っていることでしょう。

わたしがこの詩と初めて出逢ったとき、胸がぽかぽかと温かくなり、何とも言えない心地よさと安心感に包まれ、一瞬で大好きになったことを今でも覚えています。教員となり、これまでたくさん子ども達と出逢わせてもらい、学校生活を共に過ごす中で、クラスの子どもたちにこの詩を紹介し、発達段階に合わせて子ども達みんながこの詩について考えました。仲間一人ひとりのちがいを認め、尊重し合うことの大切さ、自分自身のことも大切にする尊さについて学習を深めたことを思い出します。みんながちがう考えをもち、みんながちがう性格や人格があることが自然であり、当然であること。まさに『みんなちがって みんないい』ことをクラスの合言葉にしたものでした。

併せて、『みんな同じで みんないい』ということもみんなで考えました。それは、どういうことなのか。学校は、クラス、学年、全校という集団で生活を共にする場です。みんなが、居心地よく、安全に、そして安心して学校生活を送るために必要なこと、それはルールです。みんなが守るべきルールこそが『みんな同じで みんないい』ことなのです。学校では、廊下は走らないこと、時間を守って行動することなど様々なルールがありますが、その一つひとつをみんなが守ってこそ、居心地よく、安全に、そして安心して学校生活を送ることができます。この度の感染症拡大に伴い、学校は拡大防止の措置を講じるために、新しい学校生活様式が必要となりました。国や横浜

市のガイドラインを基にしながら、本校にも新しいルールが追加されたり、これまでのものが変更になったりしています。例えば、毎朝、おうちの方と検温し、健康観察をして健康観察票を毎日提出すること、校内では基本的にマスクを着用（熱中症予防等の理由で例外あり）すること、授業時間の始まりと終わりには必ず丁寧な手洗いをすること、友達とは距離をとり、コミュニケーションを図ることなどです。子どもたちには不自由な思いをさせることも増えましたが、子ども達の安心・安全に勝るものはありません。新しい『みんな同じで みんないい』ルールはとても大切な新しい学校の生活に必要な不可欠なものとして今後も継続して全教職員で指導、支援してまいります。

保護者の皆様や地域の皆様には、日頃より、本校の教育活動へのご支援、ご協力をいただいておりますことと同時に、これまでの感染症拡大防止措置へのご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。明日から始まります夏休み以降も、感染症拡大防止措置へのご理解、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

光りや輝きこそ個性やパーソナリティー。とりわけ、小学生の6年間それを個性や新元号「令和」に変わり、はや5か月が経ちました。みなさんは、新元号に慣れましたでしょうか。

「平成最後の〇〇」という言葉がいたるところで使われ、寂しい気持ちでしたが、今では「令和初の〇〇」という言葉をよく耳にします。不思議なもので、「令和初」と聞くと、ちょっとした高揚感と同時に力が湧いてくる気がするのは私だけでしょうか。10月20日実施しました「第23回 運動会」も「令和初の運動会」となりました。当日に向けて体育館や校庭では、徒競走、団体競技、団体演技はもちろんのこと、応援団員の応援練習やリレーのバトンプラス練習など運動会に向けて熱心に額に汗をかきながら練習する子どもたちの元気な声やエネルギッシュに取り組む生き生きとした姿があふれていました。さらに、高学年は裏方の仕事として運動会を支える様々な係もあり、責任もって準備を進める姿は頼もしい存在でした。

さて、「令和」とは、外国にはどのように伝えられ、表現されているかご存知の方も多と思います。文頭に大きく書きました **【Beautiful Harmony ビューティフルハーモニー】**と訳され、広まっているようです。なぜでしょう。それは、新元号発表時に「令和の時代は、人々が美しく心を寄せ合うなかで文化が生まれ育つ。」という意味が込められると政府が説明しました。また、「日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる日本でありたい。」とも付け加えて説明したことなどが要因のようです。

運動会当日は、保護者の皆様や地域の皆様など多数のご参観やご声援をいただきました。両手を前後にふって全力でゴールを目指した徒競走。友達と心をつなぐ、指先、目線まで意識して体全身で表現した団体演技。友達と勝利を目指し、力強く競い合った団体競技。友達のために声がかかるまで大声を出し、力いっぱいに応援した応援団。友達と心とバトンをつなぎ、風を切って走ったりレー選手。そして、運動会が円滑に進むように陰で支え続けた高学年の子ども達。そのきらきらと輝く数々のシーンがそこにありました。子ども達の運動会で「〇〇をがんばりたい。」「〇〇で1位になりたい。」「〇〇を成功させたい。」など寄せる思いは一人ひとり違います。ですが、子ども達の純粋で素直な美しい心を寄せ合いながら、ひたむきに表現するその姿が、色とりどりの大きな花となり、南山田小の校庭に咲き誇りました。その光景は、見てくださった皆様の心に響いたのではないのでしょうか。

「第23回 令和初の運動会」を大きな事故やけが等がなく、無事に終えることができました。

た。これも、保護者・地域の皆様の多大なご支援、ご協力があったことでした。この場を借りまして御礼申し上げます。また、子ども達一人ひとりが達成感や満足感を得られた運動会となりましたのなら教職員一同も心よりうれしく思います。

新時代・令和も運動会をはじめ、本校の目指す教育活動の実現に向け、保護者の皆様、地域の皆様のご協力・ご支援をいただきながら、学校・家庭・地域が ***【Beautiful Harmony】*** を奏で、本校の子ども達のよりよい健全育成につなげていきたいと思ひます。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。